

「第15回因州和紙あかり展」入賞作品選考審査結果

日時 平成31年1月8日（火）
午後1時～午後4時30分
場所 鳥取市あおや和紙工房

審査員長 石谷 孝二 氏（鳥取大学名誉教授）
審査員 山ノ内芳彦 氏（木工・灯り作家）
審査員 遠藤由美子 氏（公立鳥取環境大学副学長）

■総 評

例年より出展数が少なかったが新鮮で多様な力作がそろった。大賞はシンプルな造形の中に和紙の持つ魅力を引き出す可能性を示唆する作品である。準大賞、佳作、その他の賞もそれぞれ意欲作であった。

ジュニア部門には多くの出品があった。甲乙つけがたいものがあり例年に比べ受賞作品が多くなった。一般部門の出品作の中には設置の場所がイメージされるような作品が多くあり、和紙によるあかりの魅力が伝わった。

もう一步で受賞に届かなかった作品にも優れたものがあったが、結果として特色豊かで完成度の高い作品が賞に選ばれた。

光源や和紙の選択あるいは台座の調和など、あかり本体を活かすような作品の完成度をさらに期待したい。

■一般部門 講評



大 賞 【和のあかり】 坂野 清一（石川県加賀市）

おおらかでユニークな形と新鮮な色使いがさわやかである。

使用された紙の柔らかい表情が新鮮な魅力を生み出している。シンプルで大胆な造形と調和しており、気球のような浮遊感を感じさせる作品となっている。



準大賞 【こもれび】

圓山 昭憲（鳥取県東伯郡）

紙の面と支持体の木の線の構成が巧みであり、内と外の二重構造が光の陰影を美しくしている。三角錐二つのシンプルな形ながら視点の移動で複雑な姿をみせる完成度の高い作品である。



佳 作 【ペンギン親子】

福原 実（兵庫県川西市）

フレームワークの造形が巧みで作品の完成度を支えている。形とともに色使いも的確で大小の動物の造形により暖かい物語を感じさせる佳作である。



佳 作 【木から生まれた光】

小野 真由美（岡山県岡山市）

自然の木を利用したユニークな造形とともに手作りの和紙を活かした作品である。有機的で伸びやかな形の中におおらかな自然のエネルギーを感じる作品となっている。

■ジュニア部門 講評



入賞 [百獣の王]

前田 英翔（鳥取市立日置地区公民館）

作りたいものを作ったという子供の素直な表現を感じる。

たてがみ、鼻、口などライオンの強くてかわいい表情を上手に表している。



入賞 [水そう]

杉村 陽香（鳥取市立久松小学校6年）

小さいながら水の静かさが感じられ、金魚の配置も考えられており泳いでいる姿にメルヘンを感じる。部屋に置いておきたい作品である。



入賞 [気持ち]

湊 愛遥（鳥取市立久松小学校6年）

シンプルな形やおさえた色使いが清楚でやさしい光を感じる。

ちぎった和紙の配列も適度のゆるやかさがあり成功している。



入賞 [せかいに一つのかみあかり]
大塚 楓真 (倉吉市立上小鴨小学校5年)

細部にわたって作る楽しさと意欲を感じる。細かいところまで作りこんであり、粘り強い取り組みの姿勢に好感が持てる。



入賞 [花束ランプ]
米田 壮真 (倉吉市立上小鴨小学校5年)

和紙の配色が良くできた伸びやかな作品である。形のバランスを上部で取るなど工夫があり、すっきりとした作品に仕上がった。

■あおや和紙工房賞 (鳥取県内の応募作品対象)



入賞 [森]
水田 圭子 (鳥取県東伯郡)

シンプルだが杉やもみの木を思わせる造形、ランプの傘の部分には同様な形の木が、タイトル通り森のように数多く秩序正しく並べられている。そのことが、作品にどこかかわいらしさを感じさせるポイントとなった。



入賞 [おぼろ月]

青木 健 (鳥取県東伯郡)

欠けた月を模したフレームに施された、落水紙の使い方がとても効果的である。作品名にあるように、おぼろげにやさしく灯る姿には、見る者の心を落ち着かせる温かさがある。

■ユニーク賞



入賞 [原木しいたけ とっとり115]

どんぐりクラブ (鳥取県鳥取市)

炭火の赤いあかりが効果的で、うっすらと光るシイタケも思わず食べたくくなるような効果がある。金網は既製品よりも紙を用いたほうがアピールできたと思われる。



入賞 [紅葉]

山本 隆三 (兵庫県姫路市)

光を通した紅葉の色がきれいに表現されている。細部まで作り込んであり技巧的に優れている。てんとう虫と紅葉の関連が少し気になるが、全体的に良くまとまった作品である。